

教 科		科 目			
芸術		書道Ⅱ	単位数： 2単位		
<p>指導目標：書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>					
メディア視聴	あり	60%	教科書	東京書籍「書道Ⅱ」	
スクーリング	1 単位時間×8 回	合格時間数 8 時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用	
レポート	全 6 回	合格枚数 6 枚	副教材	なし	
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)		レポート (締切期日)	スクーリング (日程と内容)	
No.1	篆書 篆書の特長		第1回 (前期)	第1回	篆書の特徴(起筆は蔵鋒、字形はやや縦長の方形、ほぼ一定の太さなど)を半紙で繰り返し練習し、多様な表現を身に付ける。
No.2	篆書 「石鼓文」「甲骨文」「大孟鼎」の鑑賞と臨書		第2回 (前期)	第2回	隸書の作品でもどのような違いがあるのかを鑑賞し感性を高める。 それぞれの作品から自分が書きたい篆書を選び、初めての篆書の臨書を体験して書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
No.3	隸書 隸書の特長		第3回 (前期)	第3回	隸書の特徴(起筆は蔵鋒、細身ながら強靱な線と強調された波磔など)を半紙で繰り返し練習し、多様な表現を身に付ける。
No.4	隸書 「礼器碑」「張遷碑」「開通褒斜道刻石」 「居延漢簡」の鑑賞と臨書		第4回 (後期)	第4回	隸書の作品でもどのような違いがあるのかを鑑賞し感性を高める。 それぞれの作品から自分が書きたい隸書を選び、隸書の字形など多様な用筆・運筆の技法を身につける。
				第5回	草書、行書の作品でもどのような違い

No.5	草書 「書譜」「十七帖」「自叙帖」「国中文帖」 の鑑賞と臨書 行書 「集王聖教序」「温泉銘」「祭姪文稿」「蜀 素帖」「伊都内親王願文」の鑑賞と臨書	第5回 (後期)		があるのかを鑑賞し、感性を高める。 行書と草書の書の美しさや変遷、特徴 を理解し、字形を整えて伸びやかな線 で表現できるようにする。 それぞれの作品から自分が書きたい草 書、行書を選び、多様な用筆・運筆の 技法を身につける。
No.6	草書 「書譜」「十七帖」「自叙帖」「国中文帖」 の鑑賞と臨書 行書 「集王聖教序」「温泉銘」「祭姪文稿」「蜀 素帖」「伊都内親王願文」の鑑賞と臨書	第6回 (後期)	第6回	草書、行書の作品でもどのような違い があるのかを鑑賞し、感性を高める。 行書と草書の書の美しさや変遷、特徴 を理解し、字形を整えて伸びやかな線 で表現できるようにする。 それぞれの作品から自分が書きたい草 書、行書を選び、多様な用筆・運筆の 技法を身につける。
No.7	仮名 「散らし書き」	第7回	第7回	寸松庵色紙に見られる散らし書きを参 考に、行頭の高さを変えたり、行の長 さや行間に変化をつけたりしながら多 様な表現を身につける。
No.8	仮名 「散らし書き」	第8回	第8回	寸松庵色紙に見られる散らし書きを参 考に、行頭の高さを変えたり、行の長 さや行間に変化をつけたりしながら多 様な表現を身につける。

## 2 評価の観点

知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える。
主体的に学習に取り組む態度	意欲的にレポート作成に取り組み、スクーリングに出席し身近な事象をもとに、感性を養い、芸術を楽しもうとしている。

## 3 評価の方法

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価する。

## 4 担当者からのメッセージ

書道Ⅱでは、スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。この科目では、外界の様々な刺激や表現されたものに対して鋭敏に反応する心の働きを養い、価値や心情を感じ取る力をつける特訓を行います。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。